

令和7年度学校自己評価

番号	項目	評価	
		平均	等級
1-1	学校は、ホームページで情報を十分に公表できていますか	3.47	A
1-2	学校は、各種通信をとおして、十分な情報を提供していますか	3.13	B
1-3	学校は、各科に応じた特色ある教育を実施していますか	3.25	B
1-4	学校は、地域と連携した教育活動をしていますか	3.19	B
1-5	学校は、生徒の学力を伸ばす指導をしていますか	2.94	B
1-6	学校は、生徒の意欲を引き出す指導をしていますか	2.91	B
1-7	学校は、生徒理解に基づいた指導をしていますか	2.97	B
1-8	学校は、規律正しい生活を送る指導をしていますか	2.59	B
1-9	学校は、部活動が積極的に行われていますか	2.19	C
1-10	学校は、的確な進路指導をしていますか	2.88	B
1-11	学校では、校舎内外の美化が図られていますか	3.00	B
1-12	学校では、危機管理に対応した防災・防犯教育が行われていますか	2.63	B
2-1	職員は、服装や頭髪への指導ができていますか	3.09	B
2-2	職員は、あいさつ指導ができていますか	2.94	B
2-3	職員は、学習指導ができていますか	2.78	B
2-4	職員は、部活動指導ができていますか	2.22	C
2-5	職員は、学校が地域活動に取り組む指導ができていますか	2.69	B
2-6	職員は、通学マナーや交通ルールの指導ができていますか	2.44	B
2-7	職員は、生徒のボランティア活動参加への指導ができていますか	2.31	B
2-8	職員は、生徒がいじめやトラブルのない学校生活を送るための指導ができていますか	3.00	B
2-9	職員は、生徒が進路目標やその実現に向けての計画性を持てる指導ができていますか	2.78	B

A:3.3以上 B:2.3~3.3 C:1.3~2.3 D:1.3以下

令和7年度 各部の重点目標

Ⅰ 総務部

基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・「開拓者精神」の理念の下、基礎基本の力、自分で考える力、自ら行動する力を備え、地域を支え、これからの地域社会の発展に貢献できる人材育成のための環境づくりを行うとともに、ダイナミックな教育活動が行えるよう定員確保に尽力する。
専門性等	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生ふるさと貢献・活性化事業やインターンシップ等の活動を広報・サポートすることで専門性の向上とキャリア教育の充実に尽力する。
自尊意識等	<ul style="list-style-type: none"> ・氷上高等学校で行われる「体験活動」や「命の教育」、その他の体験活動を広報・サポートすることで自尊意識の醸成を促進する。
人権意識等	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事、集会を計画通り進めていく中で、自分とは違う考えを尊重し、他者と対話する姿勢を身につけさせる。また、公共の精神や政治的教養を育む。
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校訪問の定期的実施など、特に中学校との連携を深め、中学校を巻き込んだ教育活動を企画・実施し、地域の学校として認知度を高める。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校との交流学习等の広報・サポートすることで特別支援教育、協働と交流学习の充実に尽力する。また、心のサポート推進事業に生徒指導部・保健部と連携して取り組み、生徒の個に応じた指導を行う。
職員の協働	<ul style="list-style-type: none"> ・行事後のアンケートや先生方のアイデアを形にして実施する。 ・オープンハイスクールを各科、専門教科に任せず、教職員全員で取り組むことで協働意識を醸成する。
教職員の資質	<ul style="list-style-type: none"> ・教務部と連携協力し、研究授業、公開授業への参加を促し、実施したアンケートのフィードバックなどを行う。
本校の魅力の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・リニューアルしたHPを使いやすいように改善していく。 ・「学校だより」の定期的な発行や、行事ごとのHP、ブログの更新を行う。 ・学校案内、パンフレットで生徒の様子や教育活動がわかりやすく紹介する。
本校の将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校からの情報、オープンハイスクール参加生徒の意見等を分析し、今後の方向性を検討する。
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、校運メンバーを中心に月1回中学校訪問を実施することができた。1学年団が夏季休業中に中学校訪問を行い、在校生の情報を伝えることができた。 ・昨年に引き続き、各学年、中学校へのはがきを送ることができている。今後は、各学年だけでなく、部活動生徒からも地域に向けて発信していききたい。 ・今年度からHPリニューアルした。さらなる改善に向けて、ネットワーク管理者と現在協議中である。 ・前年度に引き続き、オープンスクールでの選択授業の取り組みや学校便り、パンフレットなど、氷上高校の印象・イメージの中学校への発信はできてきている。しかし、受検者の増加には繋がっておらず、長期的な取り組みが必要だと思われる。 ・授業アンケートやオープンスクールでの授業呼びかけなど、総務部発信となる教職員の意識向上策を教務部との連携の中で提案していきたい。

2 教務部

基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着と主体的・協働的学習の積極的な導入を図り、生徒の適性・能力・進路に応じた教育を目指す。 ・「丹波学」を柱としてカリキュラムを運営する。
基礎学力	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習を活用して、学習習慣の確立と義務教育段階の学習内容の定着を図る。 ・TT授業、少人数授業を活用し、生徒個々の能力に応じた学習を進め、基礎学力の定着を図る。 ・主体的・対話的、協働的学習を積極的に取り入れることで、思考力・判断力・表現力・課題解決力等、確かな学力や生きる力を養う。
専門性	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の公開授業週間の活性化を進める。 ・専門性の向上に繋がる資格取得や検定試験を推進する。
自尊感情	<ul style="list-style-type: none"> ・「丹波学」を通じて、ふるさとを学び、郷土愛と自尊心を高める。
地域	<ul style="list-style-type: none"> ・「丹波学」を通じて地域との連携を強める。 ・公開授業を保護者及び地域の中学校へ案内する。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会を実施し、個々の生徒の実態と可能な支援等について情報を共有する。 ・必要に応じた合理的配慮を行う。
職員の協働	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に委員会や研修会を開催し、情報の共有を図る。
教職員の資質	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業、研究授業の実施と見学を促し、授業力の推進を図る。 ・多彩な教育アプローチを知るために、教科、世代を横断した授業見学を促す。 ・ICTの活用を促す。
本校の魅力の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・「丹波学」の取り組みをHPに掲載したり、記者発表を行い、取材を依頼する。 ・公開授業週間を保護者及び地域の中学校へ案内することで、氷上高校の実態をPRする。
将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・商業科目の学習を通じて経営感覚を持った農業人を育てる。 ・「地域未来」→「起業経営」→「課題研究」の学習の流れにより、地域を支え未来を拓く生徒を育てる。
成果と課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「丹波学」を通じて地域との連帯をはかり、地域社会の一員としての意識を持つことができた。 ・公開授業週間中の全時間帯を自由参観としたことで、教職員間の相互参観が活性化した。時間的な制約がなくなり授業公開のための特別な準備負担も軽減された。また、新たに公開授業週間の対象とした保護者の参観があった。継続して案内している地域の中学校教員の参観数は前年度を上回った。 ・学習指導研修会を通じ、個別の教育的ニーズに関する共通理解を深めることができた。学級全体の落ち着きに課題がある学級については、重点的な授業参観をすることで、組織としての指導体制の強化を図った。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員間での授業見学は促進されたが、事後のアンケート回収率の向上が必要である。 ・保護者や地域の中学校教員等から得られた意見を吸上げ還元するための手法を検討する必要がある。

3 生徒指導部

<p>基本方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校安全教育の推進、教育相談の充実、健康教育・健康相談の充実、学校の環境衛生の維持に努め、生徒自身が主体的に活動を行える環境づくり、心身共に健康な学校生活の確立を図る。 ・夢の実現に向けて自立心や自律心を養い、基本的な生活習慣を身につけ、意欲を持って高校生活を送ることができるよう指導を心掛け、自信と誇りを持ち、社会のために貢献できる人材を育成する。 ・いじめの未然防止に向けて、県のプログラム等を利用しながら取り組んでいく。
<p>自尊意識等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりを大切に、生徒の的確な把握と内面的な理解に努め、心のサポートシステムの実践・研究を推進する。 ・教科指導・特別教育活動および関係機関やキャンパスカウンセラーと連携し、多元的、総合的に生徒を理解し、いじめの未然防止と解消に努める。 ・生徒理解に努め、わかりやすい指導を心掛ける。学級活動や地域交流などを通して、生徒が互いに協力する雰囲気づくりを行う。 ・生徒が自分たちで決まりをつくり、それを守ることや、いじめを自分たちの問題として考え、話し合い、行動できる力を育むことを目標とする。 ・問題行動への計画的・継続的な指導と予防的な生徒指導に努める。
<p>人権意識等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人権意識は生徒が主体的に関与、参加、体験することを通して身に付ける。 ・民主的な価値、尊敬及び寛容の精神などを尊重・促進を目指して、日々の活動・学習過程を通じて継続した指導を行う。 ・自分で「感じ、考え、行動する」という主体的・実践的な行動を通じて人権意識の育成をめざす。
<p>地域連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域との連携を密にし、教職員の共通理解を図りながら指導の徹底を図る。 ・学校からの配付物や保護者会などを通じて、本校の指導方針等についての共通理解を図る。
<p>職員の協働</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員の共通理解を図りながら、協力体制を確立する。 ・地域行事への積極的な参加を推進する。
<p>教職員の資質</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の気持ちを「受容・共感」的に受けとめ、許容できない言動に対しては「指導・要求」していくことで、生徒の生き方・在り方に積極的に関わる。
<p>本校の魅力の発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会の中で、自ら「挨拶」を行うことのできる環境づくり。 ・氷上高校生としての誇りを養い、地域から信頼・期待される生徒の育成。 ・清掃活動や部活動での大会実績、生徒会活動等の教育活動を地域に積極的にアピールすることで、地域住民の認知度を高め、学校のイメージと信頼の向上に努める。
<p>成果と課題</p>	<p>成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒主体の活動による成果と、生徒の規範意識の低下による課題が顕著な年となった。次年度に向けた指導体制の再構築が急務である。 <p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒主体の活動の拡大と地域連携の強化: ・生徒会を中心に体育祭・桃陵祭(成果物PRタイム新設など)を見直し、生徒主体の活動が拡大。 ・安全・初期対応の体制機能:1学期の重大事故で、ヘルメット着用による安全指導の効果が確認された。 ・いじめ認知4件中3件が解決するなど、初期対応体制が機能しつつある。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導上の重大案件の多発と規範意識の低下:いじめ、暴言、暴力、喫煙、物破損、授業妨害など、5月~10月にかけて重大案件が例年より多発し、生徒の規範意識の低下が示された。 ・緊急の対応が必要な指導体制と連携: ・上記問題の背景として、学級経営の支援、生徒指導方針の統一、家庭との連携強化が浮き彫りになった。 ・ICTモラル教育の継続:歩きスマホなどの危険行為が散見され、ICTモラル教育の継続が必要。

4 進路指導部

基本方針	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりが主体的に自らの在り方・生き方を考え、能力・適性に応じた進路選択と自己実現ができるように、学校教育活動の各段階を通じて効果的な進路指導の取り組みを行う。
基礎学力	<ul style="list-style-type: none"> 全職員と協力して、教科指導はもちろんのこと学校行事、進路行事などを通じて進路意識を高める。また、教務、学年と協力し、進路情報提供業者による学習教材を用いて基礎学力向上に努める。
専門性	<ul style="list-style-type: none"> 進路情報提供業者と連携し、計画的かつ効果的な進路指導を実現させる。 インターンシップの指導を充実させ、社会的自立を促す。
自尊感情	<ul style="list-style-type: none"> キャリアノートを活用し、自己理解を高める進路LHRを実施する。 タブレットを用いた進路情報検索機能を活用し、地元企業や進学先について学ぶ機会を充実させる。
人権意識	<ul style="list-style-type: none"> キャリアノートを活用し、勤労の義務と権利を学習する進路LHRを実施する。
地域	<ul style="list-style-type: none"> 丹波市や地元企業と連携し、1年次で体験型企業展示会、2年次でインターンシップや職場見学、3年次で就職フェアや応募前職場見学を実施、地元企業を理解した就職指導を行う。
特別支援	<ul style="list-style-type: none"> 支援が必要な生徒の進路について、関係機関と連携して指導を行う。また、支援の流れについて共通理解を図る。
職員の協働	<ul style="list-style-type: none"> 特に各学年と連携を図り、生徒の進路意識を高めた進路指導を目指す。 教務部と連携し、基礎学力の向上を図る。
資質能力	<ul style="list-style-type: none"> 研修会や学校説明会に積極的に参加し、最新の情報を共有する。
本校の魅力の発信	<ul style="list-style-type: none"> HPを通して、進路指導の様子をタイムリーに発信する。
将来像	<ul style="list-style-type: none"> 地域に根差した専門高校として、将来地域で活躍できる人材を育て、地域と共に歩む学校を目指す。
成果と課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 学年・部・科と連携し、インターンシップ等の進路行事や進学・就職に向けた指導の充実を図れた。 Google Classroom を利用し、求人票の公開や進路アンケートの実施、報告書の作成などをペーパーレスで自宅でも行うことができ、進路希望について保護者と話ができる環境を創出できた。さらに編集・統計などを省力化できた。 基礎学力向上に向けた進路情報提供業者による学習教材の活用ができた。 タブレットでの進路情報検索機能を活用した地元企業や進学先の学習を契機に進路や自分自身について考えるようになった。 ブログを通して進路指導の様子や成果を発信できた。 地域に根差した専門高校として地域で活躍できる人材を輩出できた。 (進学 52.0%、就職 46.6%、その他 1.4% ※就職のうち公務員 5.9%、地元就職 73.5%) <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 県のキャリアノートを参考にしたキャリア教育のさらなる充実。 業者を活用した基礎学力向上におけた取り組みの検証。 進路決定後の学校生活の送り方について指導。 進路行事の精選とデジタル化が進む中での効果的な情報提供の工夫。

5 農業部

基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・特色ある様々な体験活動をとおして、開拓者精神の高揚を図り、地域および社会で活躍できる人材を育成する。
基礎学力	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の中で基礎的、基本的学力や技能を定着させるとともに、主体的な学習活動を積極的に導入し、課題解決能力等の学力を養う。
専門性	<ul style="list-style-type: none"> ・社会変化や産業の高度化に対応するため、ICT能力の活用など、より専門性を高め、生徒の社会的自立に向けた専門的な学びを高める。
自尊感情	<ul style="list-style-type: none"> ・専門学科における「体験的な学習」や「実物を用いた教育」によって生徒の自尊感情や他者尊重の醸成を図る。さらに、地元丹波地域への関わりの中で、ふるさとへの学びを深め、大切な地域を担う意識の醸成を図る。
人権意識	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の実習や学習活動の中で、他者と協働する姿勢を身に付けさせるとともに、人権意識を高める。
地域	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究発表会や就農講座等で地域と連携しながら開催するなど、地元の関係機関や企業と連携した教育活動を推進する。 ・地域の要請に応じ、各科が持てる力を発揮し、協力を惜しまない姿勢を常に示す。
特別支援	<ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ教育について理解を深めるとともに、配慮が必要な生徒個々に応じた実習指導の充実を図る。
職員の協働	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動における部内の共通理解を図り、協働体制を確立する。また、農場職員が心身の健康が保てるように様々な点で助け合いの精神を持つ。
資質能力	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な研究授業の実施や幅広い分野での研修を積極的に行い、農業職員の専門性や実践力の向上を図る。
本校の魅力の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・農場での日々の出来事や専門高校の特色ある学習活動などをHPで発信し、開かれた学校づくりを進める。特に今年度からは丹波市の魅力化プロジェクトを成功させるために農業部としての活動を行い、逐次情報を発信していく。 ・地域の課題解決の一端を提示できるような課題研究に取り組む。 ・学校農業クラブの県大会での上位入賞を目指し、近畿大会、全国大会に出場する生徒を一人でも多く出す。
将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・産業教育を通じて生徒の専門性を高めるとともに、地域を支える人材を育成する。
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣道の駅での定期的な販売実習を続けたことで新しい顧客やリピーターが増えた。お客様から農産物に対して報告をいただくことも多く。参加している生徒たちの励みになり、農産物の栽培・加工への自信につながっている。 ・農業クラブ活動の実績として農業鑑定競技分野野菜において県大会で14年ぶりの最優秀賞、全国大会でも2年連続の優秀賞を獲得した。その他にもプロジェクト発表県大会分野Ⅲ類で優秀賞、意見発表県大会分野Ⅱ類で優秀賞を獲得した。発表競技ではいずれも地域が抱える問題について高校生が解決に取り組む内容となっており、地域の農業高校としての役割を果たした。 ・長野県農業実習に参加し、将来の就農を目指して四年制の農業系大学へ進学する生徒がでた。また、複数の生徒が進路先として農業系学校を選択した。 ・各施設・設備の老朽化に伴い科を横断した農場全体での協力が必要となっている。今後の農場運営について意見を出し合い、まとめることが課題である。

6 保健部

基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自らが、健康の保持増進に努め、心身共に健康で安全な学校生活を送ることができる実践的な能力と態度を育てる。
専門性等	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断結果に基づき、生徒が自らの健康状態を理解し、健康管理ができる能力を育成する。 ・生徒に寄り添いながら健康課題を的確に把握し、課題に応じた情報提供と学習の機会を持つ。
自尊意識等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身が自分は大切にされていると感じられる支持的な関わりを心がけ、学校生活を通じて達成感が得られる機会を増やす。
人権意識等	<ul style="list-style-type: none"> ・自他共に尊重し大切にできるように人権意識の向上を目指した LHR 計画や取組実践をする。
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・健康福祉事務所や市教委の S S W 等と情報交換を行い、本校の健康課題や学校保健に関する課題について連携を図る。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネーターや担任、学年とこまめに情報交換を実施し、共通理解のもと個に応じた支援を行う。 ・支援の必要な生徒の実態を的確に把握してニーズに応じた支援を行う。
職員の協働	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の様子をこまめに情報交換し共通理解を図る。 ・各学年と連携、協力しながら足並みのそろった対応をする。 ・各種校内研修を通して、生徒対応、救急処置、災害対応等を学び、職員で共に協力して実行する。
教職員の資質	<ul style="list-style-type: none"> ・学校事故や災害等の対応について意識向上を図るための情報発信に努める。
本校の魅力の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ等を活用し情報発信の場として有効に使えるよう検討する。 ・「保健だより」の発信、カウンセリングの日程、保健行事のお知らせ、保健的行事のブログ掲載を積極的に行う。
本校の将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯を通じてたくましく、しなやかに生きる生徒の育成をめざして、正しい知識を持ち、リスクマネジメント能力を養い、適切な行動を選択できる生徒の育成をめざす。
成果と課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちが自らを理解し認めることができるような語りかけを行い、対話を中心に様々な場面で生徒対応をおこなうことができた。 ・特別支援教育コーディネーターや担任、学年とのこまめな情報共有を心掛け、個のニーズに応じた支援に繋げることができた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を要する生徒が増えてきているが、職員間でのこまめな情報教育と共通理解のもと足並みの揃った対応ができていない。情報共有システムの構築が必要。 ・組織としての動きが全くできておらず、きめ細やかな保健室経営は不可能である。現在の組織体制の改善が必要。

7 第1学年

基本方針	<p>①「人を尊重し、感謝する心」「挑戦する心」「農業を愛する心」を育む。</p> <p>②自ら考え行動できる力を身に付け、様々な変化に力強く対応する力を養う。</p> <p>③生徒自身が「基盤となる根」を張り、様々な経験をとおして「枝を伸ばし」、自分らしい「花」を咲かすことができるよう支援する。</p>
専門性等	<ul style="list-style-type: none"> ・所属する学科で学ぶ内容や丹波学から社会とのつながりを意識し、専門性に応じて進路における自己実現を支援する。 ・学科の授業を通して命を大切にし、命から学ぶ姿勢を持つよう支援し、実習を通して専門性を身につけることを意識させる。 ・資格取得に挑戦し、自分の知識やスキルを伸ばす力を養う。
自尊意識等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自主企画のレクリエーションを行い、生徒自身が主体的に、生徒同士で対話的に活動させ、自尊意識向上を実感できるようにさせる。
人権意識等	<ul style="list-style-type: none"> ・人権HR等を通して、自己理解と他者理解の重要性を認識させる。
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の関係機関との連携を進め、地域の一員としての自覚を促す。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導研修会において、個別支援計画、中高連携シート等を活用して、支援を要する生徒について、職員全体での支援体制を確立できるように努める。 ・保護者との連絡を密にして、要支援生徒の相互理解に努める。
職員の協働	<ul style="list-style-type: none"> ・日常より学年全体での連携、情報共有を行い協働支援体制の確立に努める。
教職員の資質	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の役割に責任を持ちつつ、幅広い視点から学年運営に携わる。 ・各種研修や研究会等に参加し、情報の共有化を図る。
本校の魅力の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・学年通信をとおして生徒の作文や活動風景の画像を掲載を心掛け、学校生活の見える化を意識する。最低月1度発行する。
本校の将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後に地域を支える人材を育成する学校。 ・地域に根差した学校。 ・地域に愛される人を育て、地域に愛される学校。
成果と課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規律ある高校生活を送るため生活目標を掲げ、「落ち着いて話を聞く」「持ち物の整理整頓をする」「教室や廊下の美化に努める」「制服の美しい着こなし」ができるよう声かけを強化した結果、12月の学年集会は4月よりも落ち着いて話が聞けるようになり、整理整頓も声をかけると片づけに取り掛かれる生徒が増えた。 ・学習に困難を抱えている生徒が多いため、定期考査の一週間前から放課後の学習会を行った。各HR教室で提出物に取り組む生徒や理解できていない問題を先生に質問し理解しようと努力している生徒が増えた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習への意欲や関心が低い生徒の割合が高い。 ・上記の成果において、できていない生徒もいるため、継続した指導が必要。

8 第2学年

基本方針	<p>学年テーマ 「Respect」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 主体的に進路目標を見つけ、それに向かう推進力を引き出す。 ② LHR や学年行事を自ら運営することで達成感を実感できるようにする。 ③ 挨拶から始まるコミュニケーションを意識し、あらゆる他者を価値ある存在として尊重できるようにしていく。 ④ 遠足、インターンシップ、修学旅行、その他の学校行事等を通じて自ら考え自ら行動する集団を目指す。
専門性等	<ul style="list-style-type: none"> ・所属する学科で学ぶ内容と社会とのつながりを意識させ、自己実現・進路実現を意識させる。 ・学科の授業を通して命を大切に、命から学ぶ生徒を育てたい。特に、「実習を頑張れる生徒 実習から学べる生徒」を育てたい。
自尊意識等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が企画する学年行事やLHRを行い、生徒自身を主体的・対話的に活動させ、コミュニケーション能力の向上を実感できるようにさせる。
人権意識等	<ul style="list-style-type: none"> ・人権HR等を通して、自己理解と他者理解の重要性を認識させる。
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の関係機関との連携を進め、地域の一員としての自覚を促す。 ・地域に出ていき地域の人々と関わって活動できる機会をつくることで社会を学ぶ姿勢を養う。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育委員会の中で個別支援計画についてしっかり議論し、共通認識をもって支援を行う。 ・個別支援計画、中高連携シート等を活用しながら、支援を要する生徒について、職員全体での支援体制を確立できるように努める。 ・保護者との連絡を密にして、要支援生徒の相互理解に努める。
職員の協働	<ul style="list-style-type: none"> ・日常より学年全体での連携、情報共有を密にし、協働支援体制を確立する。
教職員の資質	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の役割に責任と誇りを持ち、幅広い視点から学年運営に携わる。 ・各種研修や研究会等に参加し、情報の共有化を図る。
本校の魅力の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・学年通信を定期的に発行し、情報発信に努める。 ・本校のHPやBlogを通じて、学年のトピックスを積極的に発信する。
本校の将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後に地域を支える人材を育成する学校 ・地域に根差した学校 ・地域に愛される人を育て、地域に愛される学校
成果と課題	<p><成果></p> <p>2学年では体育祭、インターン、文化祭と行事がたくさんありこれらを経験したことによる成長がみられる。</p> <p>生徒会や農業クラブの役員に選出されたことで、来年度最高学年のメンバーとして学校を引っ張っていく準備が整った。</p> <p><課題></p> <p>11月以降、学習に対して落ち着いて学習に取り組まない生徒が増えた。今すべきこと、その意味を理解し校内全体で集中する環境をどう作っていくかが課題。</p>

基本方針	<p>学年目標「素直な人 思いやりの人 挑戦する人」の集大成の年にする。</p> <p>① 素直に人の話に耳を傾けられる姿勢と態度を身につけさせる。</p> <p>② 他者にも自分にも思いやりを持てる優しい心を育む。</p> <p>③ 各自が明確な目的意識を持ち、自主的・積極的な取り組みを積み上げ、充実した高校生活を「自ら」作ることができるよう支援する。</p> <p>④ 生徒1人1人の進路実現に寄り添い、適切なサポートを心掛ける。</p>
専門性等	<ul style="list-style-type: none"> ・所属する学科で学ぶ内容と社会とのつながりを意識させ、自己実現・進路実現を意識させる。 ・学科の授業を通して命を尊重し、命から学ぶ生徒を育てたい。 ・課題研究を通して科学的な視点を身につけられるよう、各科との連携を図る。 ・資格取得に積極的に取り組むように支援する。
自尊意識等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が企画する学年行事を行い、生徒自身が主体的・対話的に活動することで、コミュニケーション能力の向上を実感できるように導く。
人権意識等	<ul style="list-style-type: none"> ・人権HR等を通して、自己理解と他者理解の重要性を認識させる。
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の関係機関との連携を進め、地域の一員としての自覚を促す。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導研修会において、個別支援計画、中高連携シート等を活用して、支援を要する生徒について、職員全体での支援体制を確立できるように努める。 ・保護者との連絡を密にして、要支援生徒の相互理解に努める。
職員の協働	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の連携、情報共有を密にし、協働支援体制を確立する。
教職員の資質	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の役割に責任と誇りを持ち、幅広い視点から学年運営に携わる。 ・各種研修や研究会等に参加し、情報の共有化を図る。
本校の魅力の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・学年通信を月1回発行し、情報発信に努める。 ・本校のHPやBlogを通じて、学年のトピックスを積極的に発信する。
本校の将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後、地域を支える人材を育成する学校。 ・地域に根差した学校。 ・地域に愛される人を育て、地域に愛される学校。
成果と課題	<p>【成果】</p> <p>63回生の希望進路は幅広く、多岐に渡っているが、進路指導部をはじめ各部各学科との連携により、1人1人の進路目標を適切に把握し、細やかで丁寧な進路指導を行うことができた。多くの先生方に学習面や面接指導のサポートを得て、厚みのある進路指導が可能となっている。</p> <p>生徒自身も自らの進路と真剣に向き合い、進路実現に向けて取り組む過程の中で、ひとまわり大きく成長することができた。</p> <p>また、桃陵祭や体育祭等の学校行事においても、積極性や創造性を発揮し、3年間をかけてリーダー的存在に成長した。</p> <p>【課題】</p> <p>卒業まで登校日数もあとわずかとなっている中、基本的な生活習慣をあらためて意識させ、学校生活が浮ついた雰囲気にならないように配慮したい。皆が、そろって、清々しい表情で卒業式を迎えられるように、生活面、学習面のサポートに努めたい。</p>

10 生産ビジネス科

基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・農業を通して知識や技能を身に付け、生きる力を養い地域の産業人を養成する。ふるさとの自然や文化を愛し、地域の課題解決に参画する態度を養う。
専門性等	<ul style="list-style-type: none"> ・専門教科や普通教科に丹波学および課題研究などを結びつけ、各自の専門性を向上させる。スマート農業やトレーサビリティ等を意識した学習を通じて社会の変化を柔軟に捉え、それに対応した知識と技術を身につける。
自尊意識等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ブランドに触れるため、積極的に作物の栽培や家畜の飼育に取り組む。 ・地域ブランドを生産しているプライドを持たせ、自尊感情やふるさと丹波への意識の醸成をはかる。
人権意識等	<ul style="list-style-type: none"> ・他学年との縦断的な実習の中で、声掛け・指示の仕方などを学び、他者を尊重する態度や協調性、責任感などを育成する。
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のイベントや各種講演会に積極的に参加し、地域ブランドの栽培・飼育を行う中で、関係機関との連携や特産物等への学びを深める。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の状態や特徴を把握し、教員間で情報を共有する。生徒個々の特性を理解したうえで対応を心掛け、インクルーシブ教育の推進を図る。 ・個々の生徒を注視できるよう専攻別の少人数制の学びを展開する。
職員の協働	<ul style="list-style-type: none"> ・学科としての長期目標を設定し、組織としての活動を活性化させる。 ・週に一回の科会を行い、業務進行状況や課題、生徒情報などを共有する。
教職員の資質	<ul style="list-style-type: none"> ・校内外でイベントを企画運営することで、計画や運営の機会を増やし、生徒と共に物事を作り上げていく力を育成する。 ・積極的な研修会や研究会への参加を促し、創意工夫する力と小さな可能性を伸ばす力を身につける。
本校の魅力の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・画像や動画などの視覚情報を活用する中で、本科では何ができ、何を学び、どう成長するのかを分かりやすく伝える。 ・HPの更新頻度を増やし、行事やトピック等のPRを積極的に行う。
本校の将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の一次産業を担う人材育成を主軸とし、地域に還元できる地域の産業人を育成するための学科体系を検討する。 ・本科で学んだ生徒が地域を支え、本校を支える人材育成を目指す。
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・10月に行われた農業クラブ全国大会に出場し、農業鑑定の部門で優秀賞を取るなど各自の専門性を向上させることができた。しかし、一部の生徒に留まっているのも現実で、全体的な底上げには至っていない。更なる知識と技術を多くの生徒に身につけさせる流れを作って行きたい。 ・多様な特性を持つ生徒が在籍している。全てに対応することは難しいが、教員間で情報を共有しつつ、インクルーシブ教育の推進を図って行きたい。また、個々の生徒を注視できる少人数制の学びを進めていきたい。 ・本年度少ないながらも4年生大学へ進む生徒もいる。今後、地域の一次産業や産業人となるべく高い学びを得てほしい。必要に応じて該当する生徒と連絡を取りつつ、地域を支える人材育成を目指したい。 ・全ての部門ではないが、農場の施設・設備の老朽化がみられる。昭和50年代の施設などは今後のスマート農業に対応できる物へと更新できるよう計画を立てて行く必要があると考える。

II 食品ビジネス科

基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・食品加工、食品製造、品質管理の技術を軸に栽培から販売までの基礎学習を通して、6次産業に対応した人材の育成。
専門性等	<ul style="list-style-type: none"> ・食品製造や流通・食品衛生・食品化学の専門性を生かした実験・実習を実施。
自尊意識等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や小学生との交流授業を通して、生徒たちが地域での活動から学ぶ力や自己有用感、自尊心を高め、働く力の育成に努める。 ・各生徒が自ら目標達成に取り組む過程を通して、自己理解し、向上に努める。
人権意識等	<ul style="list-style-type: none"> ・実験・実習を通して互いに協力し、思いやりを持って自他を認める態度を身に付けさせる。
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域企業等と協力し、地域食材を使用した商品開発に取り組むことで、地域とのつながりを強くする。 ・道の駅や地元イベントに販売実習として参加することで、地域とのつながりを強くする。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援推進委員会や担任と連携し、支援を要する生徒の共通理解及びわかりやすい授業実習に取り組む。
職員の協働	<ul style="list-style-type: none"> ・科の目標に対して科内の共通理解を図る。また、他科をはじめ、部、学年との連携を深める。
教職員の資質	<ul style="list-style-type: none"> ・食品に関する講習会等に積極的に参加し、個人の能力向上を図るだけでなく、知識の共有に努める。
本校の魅力の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の実習などの情報をホームページで発信するだけでなく、原材料栽培から加工・販売されている本校の加工品の魅力（他には負けない商品）をイベントなどでアピールする。
本校の将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に必要とされるためにも、学科の目標でもある6次産業化に向けた人材の育成はもとより、商品の販売についてインターネット販売などを通じて、県外でも本校の加工品を販売できる販売網を確立する。 ・地元に残り地域を支えるリーダーを育成する。
成果と課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅（おばあちゃんの里）で加工品販売実習を年間7回実施し、地域の方はもとより、県外の方への接客により生徒自身が達成感と考える力やコミュニケーション能力を向上することができた。 ・地域企業等と協力し、本校産鶏肉を使用したサラダチキン塩麴味の商品開発をし、商品化、販売することができた。 ・地域団体との放置柿の有効利用としての加工処理等の協力要請にこたえることができた。 ・日常の実習の様子をSNSで発信することができた。 ・食品関係の外部講師を招いた生徒への出前授業を実施し、生徒の知識の向上はもとより職員の知識向上にもつながった。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科単位での企業見学の実施。 ・実習でのタブレット使用におけるWi-Fiの環境整備。 ・バレー部寮西側圃場の整備。（灌水用の水道工事等）

12 生活ビジネス科

基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域から得た学びを自分のものとし、地域に還元できる生徒の育成」をモットーに「農」・「食」・「福祉」を体験的に学ぶ。
専門性等	<ul style="list-style-type: none"> ・安心、安全を第一として、農産物の生産・提供を目指す。 ・座学と実習の学びを連携し、深い専門学習を行える環境を作る。 ・生徒自身が誇りを持てる食の学びや福祉の学びを実践し、一人ひとりが成長できる指導に取り組む。
自尊意識等	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの成功体験をより多く提供する機会を持ち、自尊意識を高める。 ・学年を横断した時間外総合実習の配当を行い、互いを認め合う場をつくる。
人権意識等	<ul style="list-style-type: none"> ・実習等で仲間と協働して取り組むことで協調性を養う。 ・交流活動や連携授業を通して社会性と他者を理解する力を養う。
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・「学んで良かった」、「地域から愛される」、「地域に貢献できる」生活ビジネス科となるよう、年次計画で学習内容を深化させる。 ・こども園との交流活動や地域での販売活動を通じ地域連携を実践する。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・学年と科の連携を深め、情報の共有と個々の生徒理解を図る。 ・支援学校との連携を通じて、特別支援教育の充実を図る。
職員の協働	<ul style="list-style-type: none"> ・継続した科会を開催することで共通認識を図り、協働して課題解決に努める集団作りをする。科内の農業教員での集まりも定期的に行い、施設設備等の改善を図りながら、生徒にとってよりよい実習環境作りに努める。 ・学科長会、農場会議などを通じて他科との情報交換や共有を図り、共に成長できる集団を目指す。
教職員の資質	<ul style="list-style-type: none"> ・各種講習会に参加し、個々の能力の向上を図る。そこで得た情報や技術を員間で共有し、生徒に還元していく。
本校の魅力の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の取り組みなどをHPに掲載し、学びの様子を発信する。 ・丹波市の魅力化プロジェクトに取り組むことを機会に、より積極的に学科の魅力発信していく。
本校の将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びに満足する在校生」、「生活ビジネス科で学んでよかったという卒業生」、「ここで学びたいという中学生」を一人でも多くつくるために学科の在り方を考え、存在意義のある生活ビジネス科を作り上げる。 ・類型学習の成果と課題を検証し、地域に貢献できる人材の育成を目指す。
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と同様、教員をはじめ各生徒が安全に留意し大きな怪我や事故がなかった。また、近年危惧している実習時の高温対策について試してはいるが冷却ファン付きベストを着用して夏季休業中の農場実習を行う機会を得た。着用の成果は顕著であり、諸問題はあるが導入について前向きに検討する必要性を実感した。 ・中学生をターゲットに本校の魅力を伝えるためのプロジェクトに積極的に取り組んだ。販売時のエプロンのデザイン、本校農産物を利用したパンやお弁当メニューを開発し、桃陵祭や道の駅での班ができた。課題として、宣伝方法や単価設定など中学生に対してさらに興味を持ってもらえるよう工夫が必要。 ・今年度の入学生より類型学習開始時期や学習科目の見直しを行った。その成果として年間を通して落ち着いて専門の授業に取り組ませることができた。来年度両類型の学習を体験させた後、どのようにして類型選択を進めていくよりよい方法を科で相談して実施していくのが課題である。